

志田洋子先生の思い出

身延山大学長 浜 島 典 彦

志田洋子先生は笑顔がとてもチャーミングな方でした。志田先生とは三年余のお付き合いに過ぎませんが、講義日に講師室でお会いすると、必ずといって良いほど先生の方から「お早うございます」「こんにちは」と挨拶された後に、「学長 お元気ですか?」と優しい言葉を付け加えられるのが常でありました。志田先生の人柄が偲ばれる一場面であります。

志田先生は昭和十五年三月二十二日、山形県萩生町の後藤家に生を享け、長じて日本社会事業大学社会福祉学部社会事業学科を卒業された後、実社会出て活躍されました。静岡市に居を構えられ、静岡県立富士見病院をはじめ県立総合病院、静岡赤十字病院にて医療社会事業業務に携わられておられます。更に志田先生は向学の志を高く、日本社会事業大学大学院社会福祉研究科修士課程に進まれ、齢五十一にして平成三年三月に修士課程を修了されております。以降、近畿大学豊岡短期大学、浜松医科大学看護学科、駿河看護専門学校等で教鞭を執られた後、同十五年十月に身延山大学仏教学部客員教授に就任され、同十七年四月より専任教授として主に「公的扶助論」「地域福祉論」「介護実習指導演習」等を講義され、本学の発展に寄与されました。

志田洋子先生の思い出 (浜島)

志田洋子先生の思い出（浜島）

学会・社会活動として、日本社会福祉学会、実践理論学会等の会員となられ、静岡県医療社会事業協会理事、静岡県ソーシャルワーカー協会世話人、静岡市介護保険認定審査員等、殊に静岡県の地域社会福祉事業に大きな足跡を遺されております。

主な著書には、『方法としての実践記録』（相川書房 平成十五年三月刊）、福祉学関係の学会では「退院患者をめぐって」（実践記録研究誌 昭和四十五年九月刊）「疾病と家族の力動」（実践記録研究誌 平成元年三月刊）「仏教福祉学科への展望」（『身延論叢』第十一号 平成十八年三月）等、数多の論文を著わされております。平成二十一年三月に身延山大学を退職、同年四月には本学への多大なる功績が認められ推されて名誉教授となられ、その後も非常勤講師として教鞭を執られていました。しかしながら、昨年九月十一日、突如霊山往詣された報に接し私たち教職員学生は唯唯驚くばかりでありました。

平成十九年二月二十七日、同郷でありました御主人志田利名誉教授（本学福祉学科設置に尽力された）に先立たれてから、ご命日には必ずといっていいほど静岡市葵区沓谷日蓮宗蓮長寺にありますお墓に詣でたと伺っております。享年七十六をもって霊山へと旅立たれた志田洋子先生（法名は延学院妙愁日洋信女）、どうか霊山会上で利先生との再会を果たされんことを祈念し、また、身延山大学の更なる発展をお見守り下さるようお願い申し上げます。